

女性に対する暴力をなくす運動

11月12日～25日

女性児童課 女性子ども支援係 ☎(0824)73-1243

ストップ DV!!

配偶者などからの暴力(DV)防止
(「DV」・・・ドメスティック・バイオレンスの略)

DVとは、配偶者(夫または妻)や恋人など、親密な関係にある相手からの暴力のことです。

中でも、夫から妻へ、男性から女性へというケースが多くなっています。家族や恋人間のことであっても、DVは立派な犯罪です。

しかし、プライベートな関係の中で起こるDVは見過ごされやすく、被害が深刻になるまでわかりにくい難しさがあります。

「もしかしてDV?」と思ったら、相談機関に相談するよう、声をかけてください。

DVにはさまざまな形態があります

暴力というと、「殴る」「蹴る」などの「身体的暴力」を思い浮かべますが、実際には暴力の形はそれだけではありません。

身体的暴力
(例) 殴る、蹴る、つねる、首を絞める、物を投げつける、叩く、刃物を突きつける、殴るふりをして脅す、髪を引っ張る、熱湯や水をかける など

精神的暴力
(例) 無視、人格を否定する、常に非難・批判する、暴言をはく、交友関係や電話を細かく監視する、外出を制限する、大切なものを壊す など

性的暴力
(例) 性的行為の強要、避妊に協力しない、見たくないポルノビデオやポルノ雑誌を見せる、中絶の強要 など

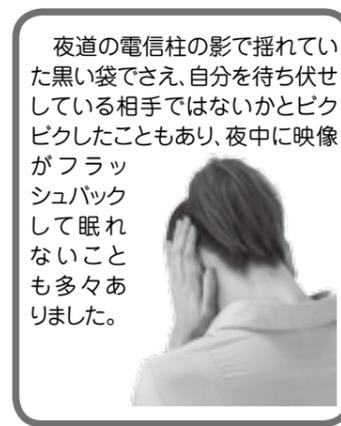
経済的暴力
(例) 生活費を入れない、借金を重ねる、金銭的自由を与えない、相手だけに仕事をさせる、仕事をさせない など

○パートナーに、このような行為をしたり、されたりしていませんか?

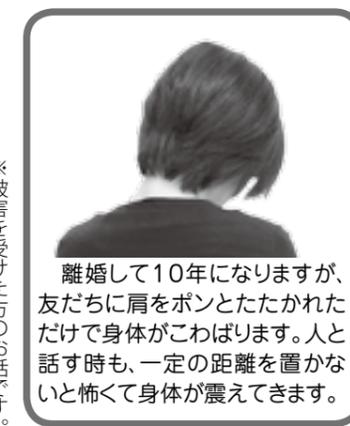
DVは、被害者に大きな影響を与えます

身体的暴力以外の暴力は、加害者も被害者も、DVであると認識しにくく、被害がより深刻化する可能性があります。

また、身体に受けた傷やアザだけでなく、目に見えない心を受けた傷が被害者にとって一番つらく、長い時間をかけて心のケアが必要になることもあります。



夜道の電信柱の影で揺れていた黒い袋でさえ、自分を待ち伏せしている相手ではないかとピクピクしたこともあり、夜中に映像がフラッシュバックして眠れないことも多々ありました。



離婚して10年になりますが、友だちに肩をポンとたたかれただけで身体がこわばります。人と話す時も、一定の距離を置かないと怖くて身体が震えてきます。

※被害を受けた方のお話です。

相談ください。

市は、昨年から女性相談員を設置して、DVなどの相談をお受けしています。もし、パートナーとの関係をつらいと感じているなら、どうぞ「ひとり」で悩まないで相談ください。ご家族や友人からの相談もお受けします。

相談機関名	電話番号	相談時間など
配偶者暴力相談支援センター	広島県西部 こども家庭センター	082-254-0391 月～金 10:00～17:00 休日夜間電話相談 082-254-0399 月～金 17:00～20:00 土日祝 10:00～17:00
	広島県北部 こども家庭センター	0824-63-5181(代) 内線2313 月～金 10:00～17:00
庄原警察署	0824-72-0110	24時間
庄原市役所(各支所含む)	0824-73-1243	月～金 9:00～17:00

※プライバシーは固く守られます。※女性・男性ともに相談できます。

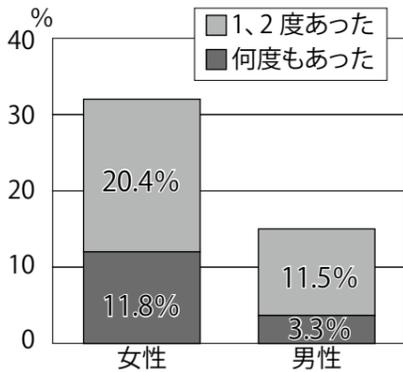
DV Q&A

Q 庄原市でもDVを受けている人がいるの?

A 平成23年度に実施した市民アンケートによると、女性の約3人に1人(32.2%)・男性の約7人に1人(14.8%)が「身体的暴力」「精神的暴力」「性的暴力」のいずれかを経験しています。

このうち、これらの暴力を「何度も」受けた人は、女性の約10人に1人(11.8%)、男性の約30人に1人(3.3%)となっており、国の調査とほぼ同じような割合となっています。

庄原市でも、DVは特別な問題ではなく、あなたのすぐそばで起こっている可能性もあります。



H23 庄原市男女共同参画の形成に関する市民アンケート結果

Q DVっておおげさに言うけど、夫婦ゲンカと何が違うの?

A 夫婦ゲンカとDVの一番の違いは、「お互いが対等な関係であるかどうか」です。

対等な立場でやりあう夫婦ゲンカに対して、DVはいつも同じ人が、自分の都合の良いように相手を支配コントロールする不平等な関係といえます。暴力を受けると、安心できるはずの家庭の中で、怯えながら過ごすなくてはならなくなります。そのため、「相手を怒らせないこと」が判断基準となり、自分で物事を決めたりすることが難しくなります。

Q DVが嫌なら、なんで逃げないの?

A 離婚を選択したり、逃げたりすることを決心するのは簡単なことではありません。

被害者は「お前が悪いからだ」と責められるうちに、「暴力を振るわれるのは自分のせい」と思い込んでしまうこともあります。

DVは、激しい暴力が起きる時期と、一時的にやさしくなる時期を繰り返すため、被害者の多くは「根はいい人。いつかは変わってくれる」と期待します。

また、逃げることは、今まで築いてき

逃げたらどうなるか
分かってるだろうな!!

子どもや私の親にまで
手を出されたら...

優しいときもある。
私さえ我慢すれば...



た人間関係や仕事など、生活のすべてを捨てることであり、経済的な自立が困難なことと併せて、大きな覚悟が必要です。

Q DVをするのって特別なタイプの人?

A 新聞やテレビで取り上げられる事件では、とかく加害者の異常性・病理性が語られます。しかし、DVをする人に特定のタイプはなく、年齢や職業、社会的地位などもさまざま

Q 暴力を振るう方も悪いけど、振られる方にも問題があるんじゃないの?

A どんな状況でも、暴力は許されない行為です。

例えば、会社で上司が部下を指導するのに、「殴る」「蹴る」「脅す」などの手段を用いたら大問題になります。それゆえ、口頭や書面で注意します。親しい関係であっても、それぞれ別の考え方を持った人間です。どんな場合にも暴力が正当化されるためにはいけません。問題を解決するためには、暴力以外の方法があるはずなんです。

暴力を容認し、被害者が責められてしまう風土によって、被害者は誰にも相談できず、社会的な取り組みが遅れてきた面もあるのです。

そのため、「暴力は犯罪である」という社会全体での共通認識も必要です。